



多彩な
保命酒徳利の
数々を展示



▶この穴は？



大保命酒展

潮待ちの華

特別展 保命酒創醸 365年記念

2023年(令和5年)
10 / 13 (金)
12 / 3 (日)

月曜日休館
9:00 ~ 17:00

③



④



⑥



⑦



②

- ①保命酒徳利、備後鞆津風景、葛通し 岩谷焼(個人蔵)
- ②文人貼交屏風(江戸時代後期、保命酒屋旧蔵)〔当館蔵〕
- ③置看板(写真パネル)実物は、岡本亀太郎本店へあります。
〔保命酒屋旧蔵〕龍を配した見事な江戸時代の作。
- ④保命酒徳利、薔薇、葛通し 岩谷焼か〔個人蔵〕
- ⑤保命酒徳利、青磁 三田焼(兵庫陶芸美術館蔵)
- ⑥保命酒徳利、朝鮮通信使漢詩入 岩谷焼〔個人蔵〕
瓶生玉堂蔵が配されている。
- ⑦保命酒徳利、朝鮮通信使漢詩入 岩谷焼(個人蔵)
- ⑧保命酒徳利、④(生玉堂・保命酒屋)入 高取焼(個人蔵)



福山市鞆の浦歴史民俗資料館 〒720-0202 広島県福山市鞆町後地7536番地1 (TEL・FAX)084-982-1121

一般入館料: 150円(団体20名以上:120円) ※11月3日(金)の文化の日は無料です。／高校生まで無料

【主催】福山市鞆の浦歴史民俗資料館／福山市鞆の浦歴史民俗資料館活動推進協議会／福山市 【共催】福山市鞆の浦歴史民俗資料館友の会 【協力】鞆保命酒協同組合



8

瀬戸内海のと真ん中に位置する鞆の浦は、「潮待ち」に最も恵まれた港町とし万葉の時代から栄えました。

保命酒は物流の集散地であった鞆の浦で、万治二年（1659）に中村吉兵衛が考案した薬草を漬けた独特の薬酒です。特産品の保命酒は、北前船などにより北海道、佐渡等をはじめ、全国各地に幅広く販売されました。

保命酒の徳利には、備前、三田、丹波、砥部、岩谷など各地の優れた焼物が用いられ、さらには、幕末、保命酒屋は近くの浜に鞆皿山窯を設け、自ら保命酒徳利までをつくりました。容器である徳利には、文化の付加価値をつける惜しみない工夫がされ、驚くほど多種多様な徳利がつくられました。本展では、とりわけ「港町文化・鞆の結晶」のような保命酒徳利を数多く展示いたします。

伝統産業の保命酒によって、近世、鞆の町並みの重要な部分である保命酒浜一帯が形成されました。いわば、保命酒が、鞆の町並みの核をつくったとも言えます。その後、太田家が常夜燈周辺の広範囲な一角を守り続け、今も風情豊かな港町の町並みが残ることとなっています。



9



10



11



12



13



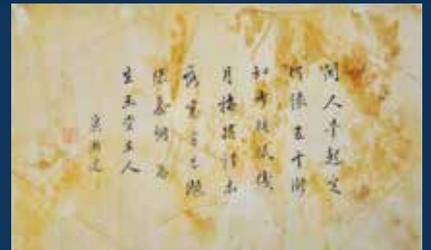
14



15



16



17

- 8 置看板 江戸時代の勇壮な作。(当館蔵) (保命酒屋旧蔵)
- 9 保命酒徳利、量り売り用 備前焼(当館蔵) (Yコレクション)
- 10 保命酒徳利、薔薇 砥部焼(個人蔵)
- 11 保命酒徳利、葛通し、紅葉 岩谷焼(個人蔵)
- 12 保命酒徳利、秋花 岩谷焼(個人蔵)
- 13 保命酒徳利、内海風景 岩谷焼(個人蔵)
- 14 保命酒徳利、花木 砥部焼(個人蔵)
- 15 保命酒徳利、人形、「とも」入 鞆皿山焼(当館蔵)
- 16 名酒九品大額(個人蔵) 頼山陽の書を木額に仕立てたもの。
- 17 広瀬淡窓筆 漢詩(当館蔵) (中村家文書)

関連行事

おもいろ保命酒徳利

(色々沢山、300を超える保命酒徳利の山)

2023年(令和5年) 8/23(水) ▶ 12/3(日) 場所▶当館ロビー

■月曜日休館、祝日の場合翌日 ※10/11(水)・12(木)は臨時休館

保命酒遺産を歩く

鞆皿山窯跡、太田家住宅(非公開部分の二階)の見学

2023年(令和5年) 11/18(土)

- 時間:13:00~ ※小雨実施
- 参加費:500円 ■定員:30人
- 対象:片道、急な坂道もある約3Km(往復6Km)を歩ける方。
- 往復はがきで11月6日(必着)までに当館へ申込。

※詳しくはお問い合わせください。